

逐次刊行物

17.5-2

国立女性教育会館  
女性教育情報センター

海を渡る鳥は、波間を漂う流木に憩うという。離婚—それは旅の半ばの一つの出来事。新たな旅立ちをした女たちはいま手を取り合い、女であるがゆえの偏見と差別に向きあう。ハンド・イン・ハンドは、生きやすい社会をめざし支えあう女たちの、流木である。

Vol. 222

## 【国民投票法案のこと知っていますか】

◆国会近くには千鳥ヶ淵や英国大使館などの桜の名所がありますが、私は花粉が恐くてお花見には行けずじまい。それでも選挙応援には行かねばならず、マイクを握っている時にツーツと鼻水がたれたり、息苦しくて話せなくなったりと、みっともないことこの上なし。夜も苦しくて寝られず最悪です。みなさんは花粉症、大丈夫ですか。

◆どうも睡眠不足だったり疲れていると、花粉症もひどくなるみたい。毎日14時間労働みたいな日々ののに、このところ「憲法」問題にもとりこんでいるから寝不足なんです。衆・参両院の憲法調査会が5年間の調査をまとめて最終報告書を出しました。多数意見と少数意見の両論を併記し、改憲といってもその内容は異なるし濃淡もありますけれど、改憲派が多数。自民党のまとめている憲法試案は、集団的自衛権の行使も認めています。

◆2001年9月11日の米国同時テロや北朝鮮の弾道ミサイルの脅威が憲法論議をとりまく状況を一変させたといふ人が多いのですが、自国の安全を守ろうとする時、まわりの目というものを常に考える必要があるのではないのでしょうか。戦争の放棄や戦力の不保持が、かつて我国が被害を与えた国々にどれだけ安心感を与えてきたか。それを今、改正して「普通の国」になってほんとうに安全なのか。諸外国との相互信頼のもとで外交交渉や経済・文化・人的交流を進めることのほうが自国の安全保障になるのではないかと私は思います。

◆しかし、そのように考える議員は少数派です。ここは市民のみなさんが憲法について、9条についてしっかり

考えを述べてくれることが必要です。96条には憲法改正のための国民投票について書かれていますが、具体的な規定がないため、これでは改憲できないと、国民投票法案を審議する声が「急」になっています。これも自民党試案がありますが、たいへん問題の多い中身です。ひとつひとつチェックして、自民党とは違う国民投票法案を私も考えていますが、同時にその議論に乗ると「9条改憲」に巻き込まれる不安もあり、よほどの注意が肝心です。

◆本来、憲法とは国家権力に対する歯止めであり、国民の権利を守るためのもの。すべての法律の上位にある憲法の改正は国民が発案してしかるべきです。そんなこと言ったって、忙しいし、難しくてわからないし、面倒だわですって？　そうですね、若者は就職活動とデートに忙しいし、30代は仕事と子育てで精一杯だし、私の年代ともなると親の介護が加わる。昨日、友人から「子どもも就職し、ほっとしたと思ったら親の介護に追われ、ついに自分のペースで生きることなく人生が終わってしまいそう」と、ため息の出るようなメールがきました。

◆うーん、でも、でも。ほら、憲法ってこんなに私たちの「いのち、やゝくらし」に関係が深くて社会の根幹なのだから、改憲って子どもたちや孫たち代々に大きな影響を与えてしまうでしょう。今だって勝手に離婚なんかして、女の我儘なのに税金で助ける必要があるのかと言われているのに、24条を変えて女性の尊厳を否定しようなんて意見も出てきているから、みなさん、改憲の流れをしっかりとチェックしましょうね。（円より子）

熱いお茶と  
梅とちぢ  
ちぢい  
うーん  
生きている  
しあわせと  
あきらめ





## 特集●第3弾 座談会

# お産をサポートする現場から

ハンドのみなさんは「離婚した私にお産は関係ない」「第一、もう孫が産まれる歳よ」という人もいるでしょう。でも、これは女にとって大事な問題。ぜひ読んで感想をお聞かせください。特にあなたの出産体験をお寄せください。大人になった子どもとの関係を見直すチャンスにもなりますよ。



司会：円 より子  
参議院議員  
現代家族問題研究所代表

出席者：茅島 江子 東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授  
佐々木 美智子 日本民俗学会  
毛利 多恵子 日本助産学会理事  
山本 令子 出張開業助産婦

### ●えっ、男の助産師さん？！

円：そもそも皆さんと出会ったのは、助産婦さんに、今は助産師と言っていますが、男性を導入しようという話があったのがきっかけでしたね。その後ずっと、お産のことや助産師さんの教育などについてミッドウイフの会という勉強会で勉強しています。

助産師に男性を導入する！ それを聞いたとき、個人的にすごくびっくりしたわけですね。私は医者でも男性にはなるべくかかりたくないと思うタイプなので。それで「イヤだ！」という拒否反応がきて。ところがそれを言ってきた議員は助産師の資格のある方で、私なんかより、そういうことにとても詳しいと思われる今の法務大臣。

で、彼女が言うには「円さんは男女共同参画を推進しているし、夫婦別姓もやっているでしょ。今は助産師だけなのよ、女性だけで職業を独占しているのは。当然賛成してくれるわね」って。私は言いました。「待ってください。職業選択の自由は憲法が保証しているけれど、看護師、医者の方からだけ物事を見るんじゃないって、出産を経験するお母さんの側から見たときにどうなのかというのはもちろん検証したんでしょね」って。「もちろん！ アンケートもしたし、お母さんたちもまったく賛成よ」って言われたときに、私の感じ方って特殊なのかと思いました。

それに他の議員の人たちも、女性議員もみんな賛成だったの。

私が「自分の親しい人や好きな人、あるいは夫とかが苦しいときにさすってくれたりするのは、まったく別の問題じゃないですか」っていったら、「医者とか助産師というのは専門職ですから、そういうところでイヤだとか嫌いだっていう人はそんなにいないんじゃないか」って言われてましてね。何より一番言われたのは「選択の自由があるからいいじゃないか」っていうことです。

離婚相談をしていて、家裁の調停や、弁護士さんについての相談もたくさん受けましたが、やっぱり調査官や弁護士と依頼人とは、相談や調停の場ではどうしても同じ土俵に立てないと言います。医者や看護師と患者の間にもやはり上下関係があるのに、そこで患者が、まして陣痛で苦しんでいるときに選択権なんてほんとにあるのかって思いました。さらに、お母さんたちにもアンケートしたっていうのはウソだとわかって、私がアンケートを始めたらほとんど反対。そういう時に、今日お集まりいただいた皆さんに出会ったわけです。一つには10年くらい前にカイロ会議というのがあって、それ以降、女性たちは自分の産まれたときから死ぬまでの身体や健康、性的な関係性、妊娠・出産も含めてありとあらゆることについてもっと自主的な判断をして、自分の健康管理をしなくてはいけないと言われるようになり

ました。でも、それが即座に、男女平等で職業選択できるんだから男性の助産師さんがいてもいいじゃないかという短絡的な話になることとは違うと思います。それから男女共同参画社会なんて言っていることは、意外と女性の自立をゆがめてしまっているのかもしれないという思いがあったものですから、これはきちんと勉強しなきゃって思ったんですね。

お産の現場そのものについて言えば、私が娘を産んだ22年前は決してお産の場所にいても、体位にしても、そしてお産を介助してくれる人にしても、選択できるような状況じゃなかった。「まさかあなたが私の主治医じゃないでしょうね」とか「こんな苦しい時にほっておくのか、お母さんと一緒にがんばるんだから、(陣痛の強弱がわかる機械を)こっちに向けろ」とか陣痛の場にながら言えるような私のような人間でも、男の医者が一人で来てはいけないということを知らなかった。だから、多くの人は抗議できないと思います。

### ●どこで産みたいの？

円：そこで今、お産の現場はお母さんが選択できるような現場になっていますか？ということを皆さんにお聞きしたいの。まず、病院を選ぶか、自宅を選ぶか、助産院を選ぶかという、お産する場所の問題について。

山本：私は開業助産師ですが、今の状況は、選ぶという以前に、病院で産むのが当たり前と思っている方が多く、病院以外で産むという選択肢がないように思います。これは病院の安全神話と言いますか、病院のお産が一番安全ということが社会に吹聴され



ているせいではないかと思います。

**円：**まず、戦後GHQに日本が占領された時、そのころは9割以上が自宅分娩でしたよね。ところが「日本のお産婆さんは非衛生的だ、こんなところで子どもが産まれたら乳児死亡率が高くなる」と、看護師さんだけ助産師の資格がないGHQの人が言い出したわけです。それをもとに押し進められた政策で、日本中が病院で分娩すべきだっていう傾向になったのが一つ。それから画期的に病院分娩が増えたのは、浩宮様、今の皇太子が産まれた時なんです。それまで皇室はすべて自宅(皇居内の産室)出産だったんですが、美智子様が皇室で初めて宮内庁病院でお産をしたんです。それ以後、病院で産むのが衛生的で安全じゃないかっていう神話が作り上げられたのも事実です。

**山本：**それから日本の産婦人科医と小児科医が、今まで高かった乳児死亡率や母体死亡率が、病院分娩が増えて改善されたことを言い広めたのもあるのではないのでしょうか。でも、それは具体的な根拠がないわけで、病院分娩が増えたからというより、公衆衛生の向上や栄養状態や生活の改善という部分が大きいと言われてます。

**円：**今は本当に病院の方が安全で、自宅分娩とか助産院で産むのは安全じゃないんでしょうか？

**山本：**いえ、そういうデータはまったくなくて、むしろ一人の助産師か、それに代わる人が妊娠初期からずっと一人の女性を継続的にケアすることが一番安全というのが、科学的根拠に基づく産科ケアでは証明されて

います。

## ●どんに風に産みたいの？

**円：**私は妊娠中の検査もイヤだし、あの分娩台の形が大嫌い。なんであんな屈辱的な格好しなくちゃいけないの。お母さんたちがこうしたいと言える状況になっているんでしょうか。

分娩体位のことでいうとね、私は、産まれた日まで働いていましたから、一日中歩いたりなんかしていると8カ月目くらいから、赤ちゃんが「出たい出たい」というように降りてくるんです。で、大変と思って横になったりして休むと、全然出てこようという気配がなくなるのね。立ったり座ったりしていると、赤ちゃんって産まれやすいってことが身をもってわかったわけですよ。それが分娩台だと、産まれにくいんじゃないかと。必死でいきまなくたって、立っていれば産まれるものを、なんで横にして大変な思いをさせるのかと思ったんですよ。それを考えたときに、自宅出産で助産師さんがずっと付き添っていると、時間はかかってもし陰は切らないし、帝王切開はしない。みんなその人の産みやすい、赤ちゃんにもお母さんにも楽なかっていうで産ませてもらえる。それなのになぜ、わざわざ、言ってみれば不幸なお産の状況が続いているのかと。

**茅島：**二人目の出産の時なんですが、自分の勤めていた産院で産んだものですから、分娩台の上に仰向けになっているのが辛くて四つん這いになったりしたんです。だけどその当時、一般の女性だったら「危ないからちゃんと仰向けになりなさい」って直されたはずなんです。だからいかに、仰臥位が辛いかっていうのは私も実感しました。

**円：**仰臥位っていうのは、今病院がすべてそうになっていて、つまり医者がうまくいい時間帯に産ませることができて、しかも自分で見やすい目の位置にお母さんを寝かせるという発想です。本当に子どもやお母さんの身体のことなんて考えていない形なんですね。患者本位じゃない。助産院などでは、もっと前の妊娠中のころから助産師が関わっているでしょう。その辺のところで病院との違いは何ですか？

**山本：**決定的に違うのは、妊娠初期か



佐々木 美智子

◎都市の民俗や産育をテーマとする研究活動を続ける一方で、NPO法人お産サポートJAPANを立ち上げ、お産環境改善のための活動を行っている。著書に、『日光街道千住宿民俗誌』（名著出版）、『21世紀のお産を考える』（岩田書院）など。

ら一人の助産師が責任を持って自宅出産のところまで関わるわけですから、その人のことがよくわかる。友だち同士みたいにお互いの性格とかがよくわかるので、その方のちょっとした心配とか不安とかをすぐキャッチできる。妊婦さんがお腹が張ったり、身体的な症状が出るのは不安とか心配が多いからで、それを取り除いてあげるというのがお産の安全につながるというふうに私は考えています。

**円：**どんなに熟練している助産師さんが病院にいても、そのときだけ来て「大丈夫よ」って言われるよりは、ずっと知り合いの助産師さんがいてくれた方が不安もストレスもなくなりますよね。

**山本：**お産のとき、リラックスして安全に産めるようにするためには、妊娠中の人間関係、信頼関係が必要だと思います。

## ●お産の情報、どこで得る？

**円：**それが今のお母さんたちは、どの病院でどんな食べ物が出るのか、お部屋がきれいかといったことばかりに目がいつているようです。ほんとに赤ちゃんにとっていいかどうかをなぜ考えないのかしらと思うけど、それは情報がなくてのことかしら。

**山本：**情報がなくてというより、一つは妊婦さんが読む雑誌が、何種類があっても医師が監修や編集していることが多いので、どちらかと言えば異常分娩の話が多く、妊婦さんに不安を与えることが多いように思います。

**佐々木：**二極化していると思うんですよ。情報を得ようとしてインターネットや雑誌を見てすぐ勉強している人もいれば、まったく何も考え



毛利 多恵子

◎神戸市内において親子2代の助産所助産婦。NPO法人お産サポートJAPAN 副代表。JICAブラジル母子保健プロジェクトに助産専門家として2年間赴任後、日本の助産のよさを伝えたいと、ボリビアやネパールの母子保健、国際協力活動に参加。助産婦として実践しながら、2005年4月より天使大学院（助産専門職大学院）教授、聖路加看護大学大学院臨床教授を兼任。日本助産学会理事、同学会国際助産協働委員会委員長。聖路加看護大学大学院修了。



ないで、お産は病院でするものと思って入院してしまう人と。それでその中で、しっかり考えているようで、実は考えていなかったりしたときに、お産の現場になって初めてあわててしまう人が多いんじゃないかと思います。

**茅島：**お産って病気じゃないってことは誰でも知っていることですよね。だから多分どのお医者さんでもいいんじゃないかっていう先入観があって、それが選ぶ以前の問題としてあるのではないでしょう。

**佐々木：**最近は女性にやさしい病院リストとか、お産のケアのいい所とかが雑誌などに出ていますよね。インターネットで検索したり、人の体験談を聞いてという方も増えていますけど。

**円：**でもあまり選択肢がないってことはありますよね。助産院が近くにあればいいけれども。いろんな問題があると思うんですが、助産師さんたち自身、もっと助産院に来たいという人を増やしたり、いい助産師さんたちがこれだけいるのよと、自宅や助産院でも大丈夫なのよっていうPRはしていますか？

**山本：**助産院とか助産師の存在をPRするためには、まず、産む場所の選択肢として助産院があるというアピールをすることと、産み場所によってお産が違っていくことをもう少しいろいろな媒体で情報提供をする必要があると思います。メリット、デメリットを含めて。選ぶのはお母さんですけれど。

**佐々木：**私は民俗学の立場で、産育儀礼のことを中心に研究していましたが、最近はお産そのものの現場と



が、環境とかに興味を持ち初め、大学の共同プロジェクトで茨城県の民俗調査をしたんです。昔からの地域には女人講があって、安産の神様を祭ったり、子育て観音にお参りにいったりとかやっているんです。ふだんはまったく自分の時間がない女の人たちが、たとえばそれまでは「ムラの女」とか「イエの嫁」として、「自分の個」という存在がなかったのに、信仰の場ではあるけれど、女人講という場になったら、何々さんとか、何々ちゃんとかという言葉で語り合える。それがとても生活に活力を与えていたんですね。そういう中で、お産の話がたくさん出てきて、自分のお産のことが一番忘れられないことなんです。

それ以外の新興住宅地の方も調査しましたら、今はそういう場がないわけですね。でも彼女たちは彼女たちなりに、安産をしたいとか、友達を作りたいという気持ちは共通しているの、たとえば保健センターの子育てサークルに参加したりとか、安産祈願に行ったり、どちらもそれなりの形で継続しているんです。そういう調査を通して見ますと、やっぱり連帯感を持ちたいという気持が、今の女性たちにも強いですね。

**円：**コミュニケーションをとれる場所がないのよね。とても孤立している。ずっと寄り添ってくれている人がいればお産はもっと楽しいし、不安がなくなるし、また次の子を産みたいという気にもなる。相変わらず夫はそれほどサポーターになってくれない。住居と職場が遠過ぎるのよと、ずっと妊娠中から付き添ってくれて、生まれたときから自分の子どもを知っている人が近くにいて、何かあったら話ができる状況であればね、そん

なに対面で緊密な関係になって引きこもってしまうとか、虐待にまで行かないまでもそんな状況になるっていうこともなくなるんじゃないかしら。

この間知り合いの精神科の先生が言ってましたけど、昔の子どもは回りにいろんな人がいて、人のことがわかるから人さらいにあわなかったっていうの。今の子は母と子だけで、いろんな大人を知らない。母親っていうのはすべて許す存在だけど、人生って必ず裏切られる。それを知らずにいつも受け入れられると思っているから、問題が起きてしまうと。そうすると新たに助産師さんや助産院を核としたコミュニケーションの場ができれば、母親もラクだし、子どももすごくいろんな能力を養えるんじゃないかなと思います。

少子化問題を国力が衰えるとか労働力がなくなるといった観点からしか捉えていないのが、今の社会の風潮です。でも私は、今生きている子どもの環境をよくするためには、まず、妊娠出産のところだと思うんですね。

## ●海外のお産事情

**円：**ところで諸外国のことをちょっと伺いたいと思いますが、ほかの国はもうちょっと患者本位になっているのかしら。

**毛利：**ブラジルで経験して思ったのは、政策がすごいなこと。日本では圧力団体があって、そこで決められているでしょ。それがほかとすごく違うところで、特にアメリカとかカナダとかヨーロッパは、政策が母子保健のためにどうしたらいいかっていう公衆衛生的な視点で決められている。

1985年、1996年にWHOの勧告が世界全部に発信されましたが、日

本の政府は、勧告は第三世界のことで、先進国にはふさわしくないと採り入れなかったと聞いています。だから母子中心のケアという点では、日本は遅れてるんです。

**円：**日本は経済効率をずっと優先してきたのと同じで、病院の経済効率を優先して、お母さんが会陰切開や帝王切開したくなくてもする。必要なくともするって形ですときたのが、あまり変わってないのかしら。

**毛利：**変わってないですね。しかも病院では会陰切開をした方が診療報酬が高くなるんです。医療介入をすればするほど、お金が入るシステムになっている。

**佐々木：**システムがまずいですよね。  
**円：**こういうところを変えない限り本当に子どもを産んでいいのかしらと思ってしまうわよね。

**毛利：**本当は調査をして、一番お金もかからないし、安全なのは助産師かどうかという結果を国が出すべきなんですよ。ローコストのお産については、政策にする。ブラジルはそうですし、カナダもそう。

**茅島：**カナダは医療費が高騰して、それまで助産師がいなかったんですが、イギリスから人を呼んで助産師を養成し、助産師による出産ケアをするようになったんです。こういうやり方は、まさに低コストでよりよいケアにつながると思います。それを政府がやるかどうかが大きいですね。

**山本：**そういう検討委員会が立ち上げられて、やはり医療費のコストを削減するということで政策を打ち出す。オランダもイギリスもカナダも底辺は一緒だと思うんですよ。根拠がちゃんとあって、自然のお産だったら助産師でも医者でも安全性は変わらないという前提で、医者を使うと人件費が高いし医療費も高騰するから助産師を使うというのが、諸外国で助産師を活用している共通の理由です。

**円：**統計がちゃんとあるわけ？  
**山本：**あります。日本は調査するっていう発想がない。

**毛利：**世界の評価には3つの視点があって、「安全」と「満足度」と「コスト」ですね。その3つで評価するんですよ。で、アメリカではローリスクあるいは中程度のリスクに関しては助産師、医者のどちらも差がないとい

う結果が出ています。ハイリスクになると医者じゃないとダメなんですけど。

**円：**それはすごく大事な視点だと思うの。よく人権派とかが言うときはね、安全と満足度までは言っても、コストのことを言わないからすべてダメになる。コストという点はすごく大事なんですね。これを政策的にやらないというのは何なんでしょうね。

## ●満足して安全に産むために

**円：**最後に、助産師さんに対する信頼感とか、そういうのってどんな感じなんですか？ 認知度も含めて。

**茅島：**病院では助産師という名札をつけていなくて、看護師っていう名札で働いていることが多いんです。だから認知度は低いと思います。

**円：**まず認知度をあげることが必要じゃないかと思うんですけど。

**山本：**やっぱり名札は必ず職種と名前を書くべきだと思うんです。

**佐々木：**そして、名前をちゃんと名乗ってくれば一番いいですね。私が担当する助産師の何々ですと。

**円：**それともう一つ助産師さんたちが認知度を高める努力をしているかということとは？

**佐々木：**そうですね。わずかながらに、昔よりイベントをするようにはなっています。たとえば「いいお産の日」とか。インターネットでホームページなどを選択できる人はそういう情報に接することはできるけども、やはり自分からそこに行けない人もいるわけだから、そういう人たちにどう働きかけるかというのは課題です。

**毛利：**インターネットで助産所のケアがいいらしいという情報を得たとしても、安全性の結果というのを公表していないから、医者がいないと危険かもしれないという感覚も残っていて、病院を選んでしまう人も多いと思います。

**円：**満足度より安全の方が多分重要な社会だから、その部分をどうPRしていくかというのも大きいと思う。

**茅島：**でも、満足であれば安全につながるんですよ、出産というのは。そこを安全が満足かと、すぐドクターは分けたがるんです。そして、安全の方が大事だろうって言うんですけど、そうじゃなくて満足であれば身体はリラックスして、それが安全



山本 令子

◎周産期センターでの勤務や助産婦学校の教員などを経て、英国の大学院で助産学修士号を取得。帰国後、科学的な根拠に基づいた、日本の開業助産婦のケアの質の高さやすばらしさを再認識し、助産所での修行の後、乳房マッサージや自宅出産を中心とした出張開業助産婦として活動している。

な出産になるんです。そこのところが、認知されていないですね。

**円：**私は自宅出産で産まれて、妹が生まれたのも小学校一年生で覚えていたわけ。そうすると、父親にお産婆さんが「早くお湯わかしなさい」とか言うのも覚えてる。お産っていうのは母と子だけじゃなくて、全員が参加できることなんです。今は誕生も死去も全部外部化されていて、バーチャルの世界で人を殺しても生き返ると思っている子が増えているっていうのは、やはりそういうものを見ていないんだと思うのね。だから「ほらお母さんのおなか、こんなに大きくなってきたね」って上の子にさわらせたりして、人間の命とか、生きとし生けるものの命の大切さとか、一緒になって教えてあげる助産師がいたりすれば、もう少しまともな命の育み方の場になるんじゃないかって思います。

病院分娩も否定はしないけど、もう少し比率が変わると選択の幅も広がるじゃないですか。分娩の時の体位、それからケアも含めていろんなところから充実させていくことが、私は少子化の問題解決の一助になると思います。そうやって産むことが楽しいと思えるようになって、産まれた子どもたちも大事にしていくこともできて、そういう環境だったらもう一人産んでもいいかなっていう方向になっていくわけでしょう？

**佐々木：**少子化対策の中に、お産の環境をよくするっていうことが入るといいんですよ。

**円：**私、それはぜひ入れていきたいの。  
**佐々木：**ぜひ入れていただきたいですね。



茅島 江子

◎千葉大学教育学部特別教科（看護）教員養成課程卒業、千葉県立保健助産婦専門学院卒業、山形大学にて博士（医学）取得、都立築地産院助産師、千葉大学、山形大学、国際医療福祉大学を経て、東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授。著書「月経らくらく講座—もっと上手に付き合え、素敵に生きるために—」（文光堂、2004年）他



## 家計簿公開

——— 家計簿公開 ———  
第152号 東京都 K・Sさん

〔家族構成〕

私 57歳（清掃パート）

三男 27歳（楽器店店員）

〔住居〕 3K（親の持ち家）

家計簿内訳 2005年3月分

★収入★

パート給与(20日分)	51,500円
アルバイト(不定期)	20,000円
三男から生活費	50,000円
二男から(振込)	50,000円
合計	171,500円

★支出★

光熱費	20,100円
国民健康保険料	3,190円
生命保険料(4人分)	35,000円
新聞・NHK受信料	5,940円
電話代	3,500円
風呂釜ローン	11,000円
私の小遣い	20,000円
貯金	6,000円
食費・雑費	66,770円
合計	171,500円

離婚して24年、長男が32歳、二男が31歳、三男が27歳になりました。

別れた夫からは養育費など貰いませんでした。当時の私には子どもたちを上为学校に進学させる経済力はなく、3人とも高校卒業後就職しました。

長男は21歳で家を出て所帯を持ち、10年で離婚しました。今は一人暮らしをしています。二男は、高校へは少し通っただけで中退し、半年位引きこもりました。その後いろいろありましたが、16歳から働き始めました。建築関係のアルバイトから始めました

## 不安定な土台の上の家計でも 日々の小さな楽しみを忘れずに

が、特殊技術を身につけることができたため、その後、仕事を請け負うようになり独立。21歳の時に家を出て所帯を持ちました。

今は、三男と2人で私の親の持ち家に住んでいます。

### バブル後に収入が減り 腰も痛めて弱音を……

離婚後は、製本業を営んでいましたが、バブルの頃は月100万円あった売上げも、弾けてからは年々減り続け、職人の給与、家賃（その頃は親に月10万円支払っていました）と毎月の支払いも大変で、1994年末には貯金もゼロに。職安へ走り、食堂のパートを見つけました。それだけでは足りず、新聞求人で見つけた清掃の仕事を見つけ、自営と3つ掛け持ちした時期もあります。

その頃は収入が15万円くらいにはなっていましたが、掛け持ちで休みもなく体もキツく、自営の製本業は10年ほど前に職人さんに譲って辞めました。今は、清掃のパートと不定期のアルバイトだけで収入も激減したため、家賃は払っていません。

2年前に腰を悪くして子どもに弱音を吐きました。二男が「助けてやる」と言ってくれたので、「お願いします」と頼み、それからお嫁さんが毎月5万円振り込んでくれます。台湾の女性で、言葉や習慣面では付き合うのはたいへんなこともありますが、お国柄、困ったときは身内が助け合うのがあたりまえだという気持ちの持ち主で、その意味では助かっています。

生命保険は上の2人が自営で請負業をそれぞれやっているの

で、社会保険がなく、何かの時の安心料です。

国民年金は免除にしています。

小遣いには、不定期のアルバイト収入をこれに当てています。ですから、月によって金額は違ってきます。1人でフリーマーケット、バザー、市民祭りなどに出かけ、リサイクルで服を買ったり、模擬店で食べるのも楽しみです。読書が趣味で、豊島・板橋・練馬の3区の図書館で借りたり、ブック・オフの105円コーナーで本を探すのが楽しみです。そのため交通費がかかりますが、いい息抜きとなっています。

外食、化粧、携帯、パソコン、ゲームも無し。髪も自分で切ります。エアコンもガス湯沸かし器ありません。

### 母親の介護を考えて 生活基盤を考え直す

不安定な土台の上の家計で、いつこけてしまうかわかりません。でも、紆余曲折ありましたが、今は身体も時間もずいぶん楽になり、平和に暮らしています。

ただ、栃木の実家に1人で暮らす母も78歳になり、いずれ介護の問題も出てくるでしょう。家を離れるつもりはないようで、その時には私が同居して介護をしなければなりません。でも、そうすると収入を得る道はなくなってしまいますし、その後も再び仕事につくことは難しくなり、その時にはまた生活基盤を一から考え直さなければなりません。今は、あまり先のことを考えて悩むよりは、と日々の生活を楽しむようにしていますが、いずれ切実な問題になることは確かです。



## ハンド・イン・ハンドの会後援!! 養育費の日キャンペーンイベント 「パパに聞きたいこと」Stage2

母子家庭のネットワーク・母子家庭共和国を母体としたNPO法人Winkは「4月19日は養育費の日」として毎年イベントを行っています。今年は4月17日。Winkの新川てるえさんからご報告を頂きました。千葉県柏市北京ホールにて、来場者数54名。

※

第1部は、新川てるえによる「面接交渉実態調査報告」で、書籍「面接交渉実態調査・パパ、ママ離婚してもあえるよね?」(ひつじ書房刊、周合せ冊04-7142-3232)より。第2部は、離婚家庭で育ったこのひとみさんの経験談や、活動を通して15年ぶりに父親に再会した娘の気持ちを語る新川てるえとのトーク。会場からは離婚後に子どもに会えない父親、葛藤しながら面接を続けてきたお母さんの意見もあり、さまざまな角度からの思いを考えることができました。



第3部/このひとみミニコンサート

## 2005年夏合宿のお知らせ/7月30日(土)~31日(日) テーマは「アンチ・エイジング」

会場の国立女性教育会館(埼玉県嵐山町)の周りは緑豊かで、近くに渓谷もあるのかな所です。おいしい蕎麦屋さんもあり、ちょっと田舎にリフレッシュに来ませんか? 仲間とのネットワークや役立つ情報も得て、今後の生活を楽しく豊かにしませんか?

「心のアンチ・エイジング」について円より子さんの話あり、高齢者施設で理容の講師をなさっている林正和さんのお話あり! また、年齢を感じさせないメイクアップ術の実演もあります。

子どもに絵を描いてもらい、お母さんとの関係性を見る企画もあります。

ベビーシッターをしてくれる方を大募集。その他、楽しい企画を思いついた方は事務局までご連絡ください。参加費等詳細は次号でお知らせします。

### ◆プログラム(案)◆

#### ■7月30日(土)

13:00~受付 (研修棟1Fロビー)

13:30~14:30 自己紹介

15:00~17:00

「心のアンチ・エイジング」

講師: 円より子さん

17:00~19:30 入浴、夕食

19:30~21:00 懇談会

#### ■7月31日(日)

7:30~8:30 朝食

9:30~12:00

「老後を豊かに楽しく生きる」

講師: 林正和さん

※年齢を感じさせないメイクアップ術の実演もあります!

◎会場: 国立女性教育会館(埼玉県比企郡嵐山町)

東武東上線「武蔵嵐山駅」下車徒歩15分

◎定員: 大人40名、子ども10名

## 弁護士一〇番 離婚と生活費の請求

**Q** 平成一〇年に結婚し、六年近く東京で暮らしてきましたが、夫の暴力に耐えかねて、家を出ました。今は、大阪の実家に戻って生活をしています。夫には、離婚したいと言っていますが、夫は離婚に応じてくれません。家を出てからの生活費も払って欲しいと言っているのですが、家を出た私が悪いと言って、払ってくれません。生活費の請求と離婚の請求をしたのですが、どうしたらいいのでしょうか。また、手続は、東京に行かないとできないのでしょうか。

**A**

生活費の請求(婚姻費用分担請求)も離婚の請求も、当事者間で話し合っても話が進まない場合、まずは、調停という手続をとることになります。

この調停は、相手方の住所を管轄する家庭裁判所に申し立てることになります。したがって、相談者の場合は、相手方が現在も東京に住んでいるのであれば、東京の家庭裁判所に調停を申し立てることになります。もし、相手方が、例えば、広島に転居していた場合は、広島の家裁裁判所に調停を申し立てることになります。

大阪の家庭裁判所に調停を申し立てたとしても、相手方の住所を管轄する家庭裁判所に移送されることになりません。

と認めるときは、「そのまま処理をすることができるとされていますので、どうしても東京で調停をすることができないという事情がある場合は、一度、大阪の家庭裁判所に相談をしてみたいかがでしょうか。」

そして、調停は、家庭裁判所の家事審判官や男女二名の家事調停委員が関与した上で、当事者間で合意ができた場合に、成立するものですから、調停の場でも話し合いがまとまらなければ、調停は成立しないまま、調停の手続が終わってしまうこととなります。

その場合、生活費の請求についてはそのまま審判に移行し、調停をしていた家庭裁判所が審判で生活費の分担や額について決めてくれます。

離婚の請求については、改めて離婚訴訟を提起しなければなりません。離婚訴訟の裁判所は、以前は、相談者の場合、夫が現在も東京に住んでいるのであれば、東京の地方裁判所に提起しなければいけませんでした。しかし、二〇〇四年四月から法律が変わって、現在、夫と妻のどちらの住所の家庭裁判所にも提起できることとなりました。ですから、相談者の場合、離婚訴訟を提起するのは、夫の住んでいる東京の家庭裁判所でも相談者の住んでいる大阪の家庭裁判所でもよくありませんので、離婚訴訟は、大阪の家庭裁判所に提起できます。

面〇六・六一三〇―五六一〇  
弁護士 松山理香



## 告知板

### 大阪ニニコ離婚講座

原則、午後1時半～午後4時半まで、ドーンセンター（大阪市中央区大手前1-3-49 Ⅱ 06-6910-8500）で。参加費：1500円

●5月28日（土）「離婚に関する法律」  
弁護士 竹川幸子さん

離婚に際して解決しなければならぬ問題に必要な法律の知識をわかりやすくお話しします。

●6月25日（土）～26日（日）合宿プログラム  
エニアグラムのワークショップ（中学生以上の子どもと大人）と、親子のことを考えるセミナーです。大阪市内・長居ユースホステルに一泊して、仲間とのおしゃべりとネットワーク作りをしませんか。単身参加や日帰り参加もOKです。

●7月16日（土）テーマは未定  
カウンセラー 天野ひろみさん

### 例会

原則：奇数月の第4土曜日の午後、竹川法律事務所（大阪市淀川区西宮原1-4-15-602 Ⅱ 06-6393-1331）、または、ドーンセンター小会議室（ご確認下さい）。

●5月はバザーがあるので、例会はお休み  
●7月23日（土）竹川法律事務所にて

### バザーのお知らせ

5月3日（火・祭）高槻のジャズフェスティバル会場でピクニックを兼ねたバザー開催。

いずれも詳細は下記へお問い合わせを。

◎大阪のお世話係：

### 東京：

Ⅱ

●5月7日（土）14時～17時  
●6月4日（土）18時～21時

……に麹町付近で集まります。5月は天気がよければ近くの公園でおしゃべりしてもいいですね。連絡をお待ちしています。

### 長崎：

Ⅱ

●最近癒しがテーマ。わが家に来られた方は、フェイシャルマッサージの練習台になっていただいています。どなたでも遊びに来てくださいね。  
●会合は不定期で行っています。詳細はお問い合わせください。

連絡先：上記電話番号または

### 各地のお世話係

仙台

群馬

埼玉

埼玉

静岡

香川

福岡

福岡

熊本

大分

広島

## 事務局掲示板

●7月末にハンド夏合宿で久しぶりにみなさんとお会いできることを楽しみにしています。●アンチエイジングが流行していますが「美しく歳をとる」というのも難しいこと。外観だけでなく精神も含めてですが、もちろん。いろんな人生の話、したいですね。（円）

●新しいハンドの編集の方が決まり、ホッと一安心!! 皆さんの声や思いのいっぱい詰まった会報にしたいので、お便りお待ちしております。また悩みやストレスはためないで!! グチでも何でも結構ですから、電話相談をどんどん利用して下さい。（向井）

●はじめまして。次号から本格的にお手伝いさせていただきます。（今号は最後にちょっぴり関わらせていただいただけなんです）●なるべくみなさんの生の声をお聞かせ願いたいと思いますので、ご連絡した際にはよろしく願いいたしますね。（藤岡）



### 愛知：WITH：

Ⅱ

●6月19日（日）1時30分～4時30分  
●名古屋市天白区  
ウィング・ティ4階にて

●テーマは未定なので、詳細はお問い合わせください。

申し込み先は上記電話番号 またはメール

### ★面接相談★

●原則第1、第3土曜日、14時～と15時半～

●料金：5,000円/50分（ただし2日前の木曜日以降キャンセルされる場合は、キャンセル料2,500円がかかります）

●5月は7、21日

●6月は4、18日を予定しています。

※お気軽に事務局（Ⅱ 03-3261-1835）までお電話ください。

### ハンドからみなさんへ発信!!

現代家族問題研究所：http://www.gendai-kazoku.jp

円より子ネット：http://www.madoka-yoriko.jp

ニニコ離婚ネット：http://www.nikoniko-rikon.net

### 離婚と母子の110番

●基本的に毎土曜日：13時～17時

●TEL：03-3261-1835

※研修を受けた相談員が無料で相談を受けています。

※一人で悩まず、気軽にお電話ください。



### <購読料について>

期限切れの通知の入った時に、お振込みください。次の3通りの方法があります。

① 1年間3600円（送料共） ② 2年間まとめて前払いの場合、7200円を6000円に。  
③ 出世払いもしくは免除（どうしても苦しい方は、いつでも遠慮なく申し出て下さい）

〔振込先〕各地の郵便局にて 00140-6-120542 ハンド・イン・ハンドの会